

1 — 進化するオートメーション

「オートメーション」が実現する価値を 幅広いお客様のニーズや社会課題の解決に活かす。

3つの領域でオートメーション事業を展開

azbilグループは、計測と制御の技術を核に1世紀余りにわたってオートメーション事業に取り組んでいます。事業領域は、大型建物の空調制御等を行う「ビルディングオートメーション (BA) 事業」、製造業の生産に必要なシステム・機器を提供する「アドバンスオートメーション (AA) 事業」、ガスや水道等のライフラインや製薬等のライフサイエンス分野に関わる「ライフオートメーション (LA) 事業」と、社会・産業・生活の様々な分野に及んでいます。

高度化するオートメーション技術への期待

オートメーションにおける制御の基本は、制御対象の温度・圧力等の様々な状態をセンサで検出し、設定された目標値に合うようにコントローラが判断、アクチュエータを通じて電動・油圧・水圧、空気圧等の機械的な動作に変換して、制御対象を一定の状態に保つというものです。

制御すべき対象によりオートメーションは多種多様であり、制御対象の変化や考慮すべき要素が増加することによって、オートメーションに求められる内容は年々高度化、複雑化しています。

azbilグループならではの技術、知見、 ノウハウを蓄積

こうした需要に応えるためには、高精度・高速なセンサなどの先進のデバイス・フィールド機器はもとより、これら機器類からの情報を判断・制御するためのAIやビッグデータを活用したシステム・アプリケーション、そして現場に機器・システムを設置して稼働を適正に保持するためのエンジニアリングやメンテナンスなどの技術・ノウハウが必要不可欠です。

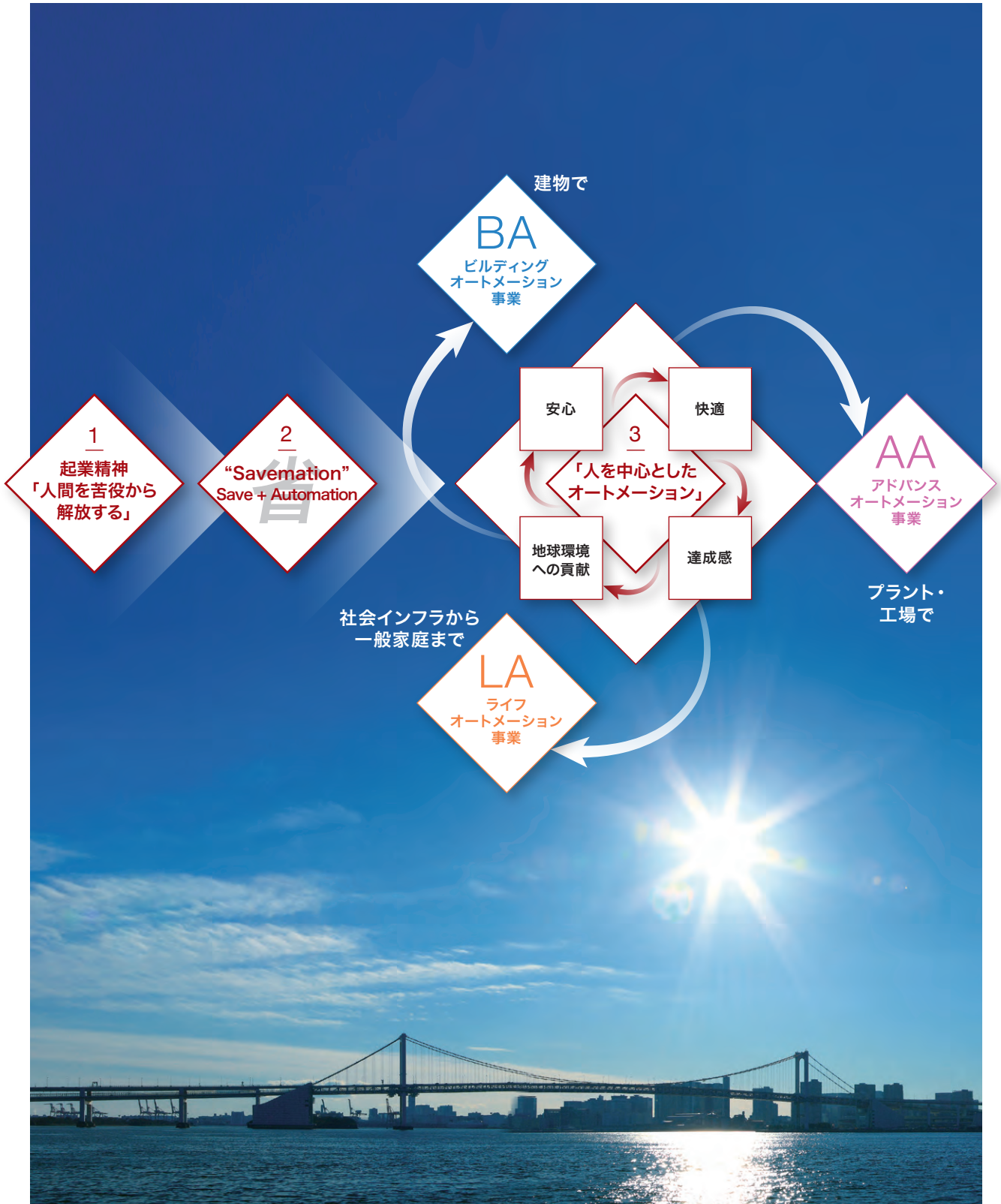
azbilグループは1906年の創業以来、常にお客様の現場においてオートメーションによる課題解決に取り組み、現場でなければ得られない様々な知見、ノウハウを蓄積するとともに、AIやビッグデータ、クラウドといった技術潮流を積極的に取り入れ、最新の技術と現場のノウハウ、高度な技能を持つ人材の融合によるazbilグループならではのオートメーションを進化させ続けてきました。

また近年は、気候変動、ウイルスとの共生、働き方改革、ものづくりの高度化等、社会構造・環境変化によりグローバルで社会・お客様のニーズが変化し、オートメーションが果たすことのできる役割が拡大しています。



技術の進化を通じて持続可能な社会に貢献

こうしたなか、azbilグループは、BA、AA、LAの各事業において、オートメーション技術を共通基盤とする「3つの成長事業領域 (新オートメーション事業、環境・エネルギー事業、ライフサイクル型事業)」に注力することで、「安心」「快適」「達成感」「地球環境への貢献」という価値を提供するとともに、社会・お客様の新しいニーズへの対応や課題解決を図っていきます。そして、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を果たしていくとともに、自らの成長を実現していきます。



2 — azbilグループの歩み

1世紀にわたって産業・社会の サステナビリティ向上に貢献。

オートメーションによる新たな価値創造を探究

1906年に創業したazbilグループは、創業の理念を継承した「グループ理念」を定めてオートメーションによる新たな価値創造を探究するとともに、事業の発展を通じた産業・社会のサステナビリティへの貢献を目指しています。

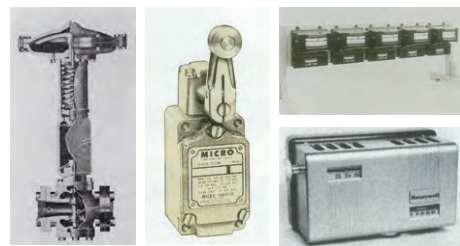
自主開発、国産化にも力を注ぎました。オートメーションの必要性を理解し、いち早く事業化した山武は、戦後復興期から高度成長期に至る日本の産業界の発展に多大な貢献を果たしました。



山口武彦

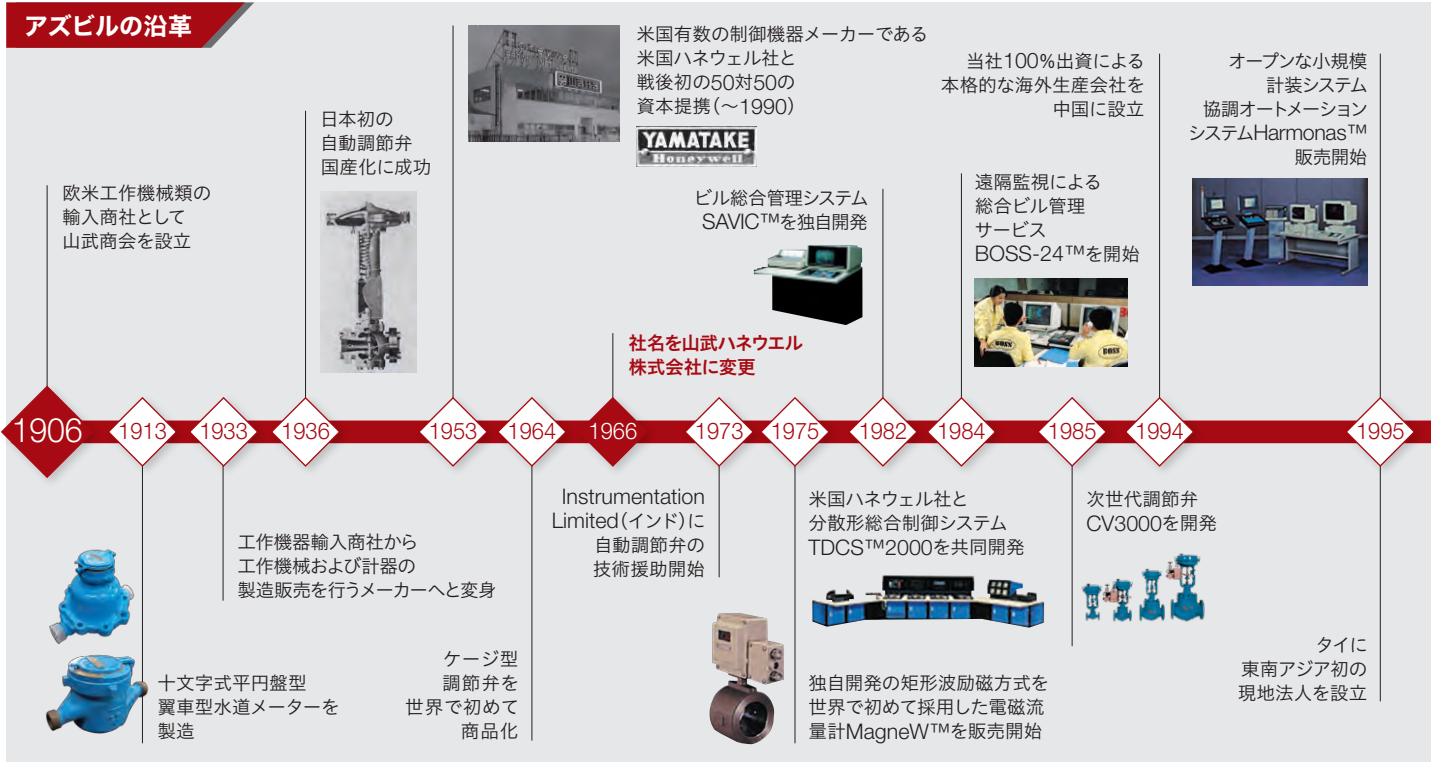
起業精神「人間を苦役から解放する」 を原点に日本の産業の工業化に寄与

azbilグループの歴史は1906年、創業者・山口武彦の「日本の勤労者を苦役から解放したい」という志の下に設立された工作機械の輸入商社山武商会に始まります。以来、山武は工業計器へ取扱いを拡大。1950年代には空調制御機器やマイクロスイッチなどを販売すると同時に、機器の



日本の産業の発展に貢献した製品群

アズビルの沿革



“Savemation” を掲げて環境対応等 新しい時代の価値を創造

総合オートメーションメーカーとして、大型建物の空調制御や石油化学プラントのプロセス制御等を通じて日本の高度経済成長に貢献し、成長してきた株式会社山武ハネウエル（現アズビル株式会社）。ところが、1973年の第一次石油危機により日本経済は大きく減速。そこで同社は省エネルギー、省力を求める社会の要請に応え、地球環境に貢献する企業理念“Savemation”[※]を新たに制定しました。オートメーション技術によって省エネルギーなど多様な価値をもたらす製品・サービスを展開し、社会に貢献する姿勢は、産業社会から高い評価を得ました。

※ Save + Automation = “Savemation”

グループ理念

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

azbil

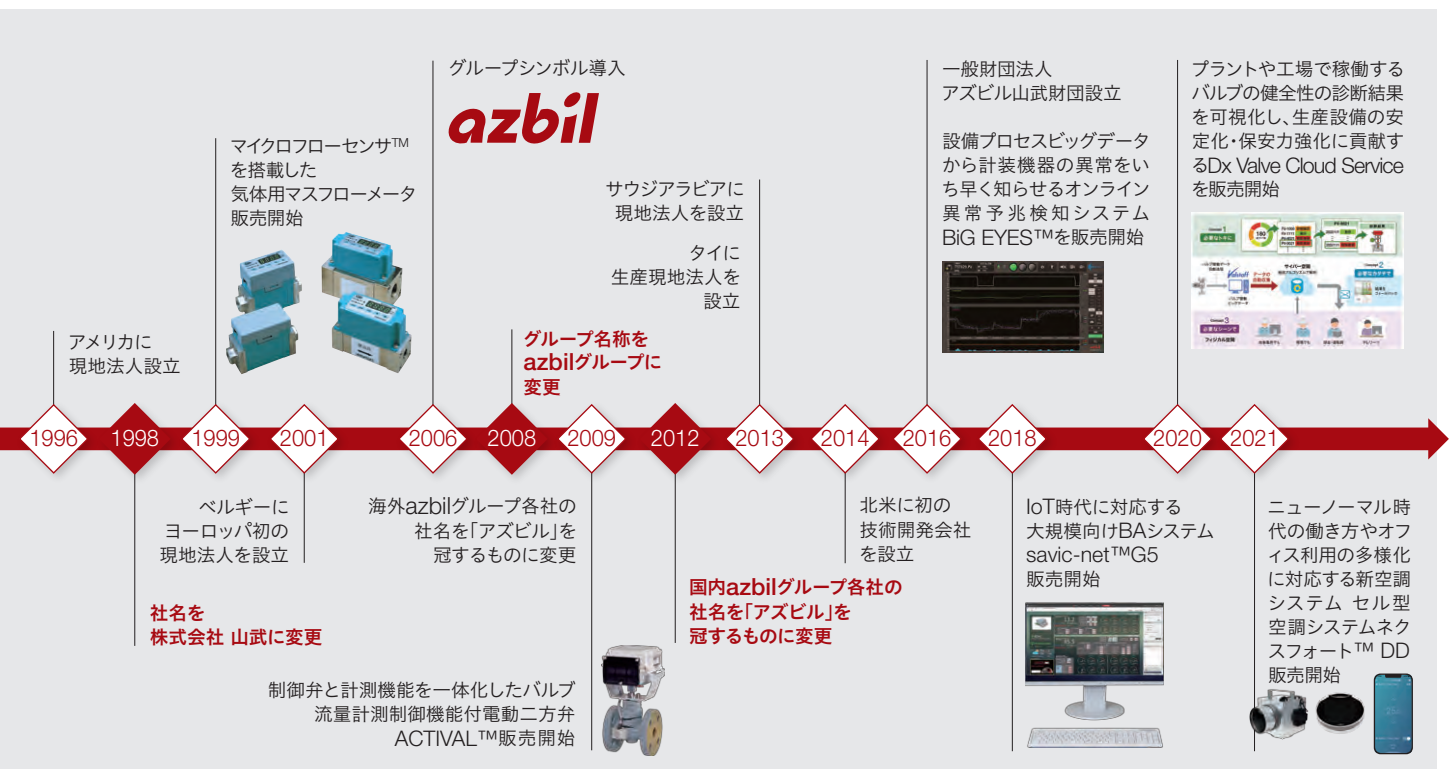
azbilの意味

automation・zone・builder

オートメーション(automation)の技術によって、グループ理念のキーワードである安心・快適・達成感のある場(zone)を実現(build)することを表しています。

「人を中心としたオートメーション」で 産業・社会のサステナビリティ向上に貢献

創業100周年を迎えた2006年、アズビルは、新たなグループ理念「人を中心としたオートメーション」を打ち出しました。これは、長年培ってきた高度な計測・制御技術、エネルギーマネジメントに関する技術とノウハウを基盤に、オフィスや工場、家庭で過ごす人々の「安心・快適・達成感」と「地球環境への貢献」を実現するという企業意思の表明です。そして、地球温暖化の影響の顕在化や新型コロナウイルスによる行動変容等、サステナブルな事業・地球環境・社会への関心がさらに高まっている現在、「持続可能な社会へ『直列』に繋がる貢献」を掲げ、世紀を超えて、azbilグループは、創業の精神を進化させながら新たな価値創造に挑戦し続けています。



3 — 社会の中のazbilグループ

日々の生活に安心・快適・豊かさを。
産業と社会にサステナブルな提案を。

AI/Big Data

IoT (Internet of Things)

工場

- 半導体
- 電気・電子
- 自動車
- 食品
- 薬品 等

ごみ処理・上下水道

研究所

船舶

プラント

- 石油化学・化学
- 石油精製
- 電力・ガス
- 鉄鋼 等

ショッピングセンター

提供価値

**Advanced Automation
プラント・工場で**

様々な製造現場での課題解決に、オートメーション技術は欠かせません。例えばプラントでは、高機能センサを用いて機器や設備の状況をオンラインで診断、さらに操業ビッグデータを活用し設備の正常な状態をAIで学習、異常予兆を早期発見するなど安全な操業に貢献しています。また半導体製造装置等のコンポーネントとして高度なセンシング技術が最先端の半導体製造に貢献しています。アドバンスオートメーション(AA)事業の詳細は、p41-44をご覧ください。

オートメーションを産業と暮らしのために

オートメーションとは、温度や圧力など様々な対象を「計測」して最適な状態にするために「制御」を行うことです。私たちazbilグループは、このオートメーション技術を核に、

IoTやAI、ビッグデータ、クラウドといった技術革新を取り入れて、オフィスやプラント・工場、人々の暮らしに展開。産業の発展や日々の生活を支えています。

提供
価値

Life Automation 暮らしの中で

私たちのオートメーション技術は、ガス・水道等のライフライン、住宅の空調システム、医薬品の製造装置にも活用され、安全・安心な暮らし、健康で快適な生活を支えています。例えば、ライフラインの分野では、通信機能を搭載したメーターによる検針業務の自動化等に加えて、電気・ガス・水道のデータを掛け合わせて新たな価値を創造するサービス (SMaaS : Smart Metering as a Service) への取組みを進めています。ライフオートメーション(LA)事業の詳細は、p45-48をご覧ください。

Cloud

提供
価値

Building Automation オフィスビル・大型建物で

オフィスビルやホテル、ショッピングセンターなど、多くの大型建物で私たちの空調制御技術が使われています。温度や湿度等をきめ細かく計測して、快適で省エネルギーになるよう、設備や機器を制御しています。現在は、快適性・省エネルギーに加えて感染症や働き方の多様化 (ABW : Activity Based Working) への対応、クラウドやIoT技術を用いて、多くの建物の電力需要を調整するVPP (Virtual Power Plant) など、azbilグループの空調制御に求められる役割も大きく拡大しています。ビルディングオートメーション(BA)事業の詳細は、p37-40をご覧ください。

4 — 成長戦略

オートメーションへの期待、役割の変化に応える成長戦略を推進。

オートメーションの役割・事業機会の拡大を捉えた成長を

世界的な課題である気候変動や日本社会における少子高齢化等の社会構造の変化、また産業界ではスマート社会実現に向けた新たな製品・サービス需要の高まり、さらに新型コロナウイルス感染拡大による世界的な安全・安心ニーズやリモート化ニーズの急速な拡大等、国内外では今、社会や産業のあり方や生活者のニーズが大きく変化するとともに、

解決すべき様々な課題が新たに出現、顕在化しつつあります。これら課題解決に、自動化・省力化・省エネルギー・省資源に貢献するオートメーションの多様な機能に注目が集まっています。また、制御すべき変数も年々拡大・複雑化しており、オートメーションの価値を一層増大させています。こうした環境変化を、azbilは既存事業分野における維持・効率化等の安定需要に加わる新たな成長機会と捉えています。

社会課題の変化

気候変動、ウイルスとの共生、働き方改革、インフラ老朽化、ものづくり高度化等の社会構造・環境の変化によりグローバルでの社会・顧客ニーズが変化(高品質、安全、リモート、グローバルでの脱炭素化への取組みなど)

azbilグループが強みを持つ
3つの成長事業領域で特徴ある
ソリューションを提供

新オートメーション事業

新たな課題を
新製品・
サービスで解決

環境・エネルギー事業

省エネルギー・
再生可能エネルギー領域
での実績に基づく強み

長期にわたって最適な状態を維持し、持続可能な社会に貢献

ライフサイクル型事業

顧客資産を長期的にサポート
長期にわたり事業基盤を拡張・整備
ネットワークを活用した高付加価値サービス

DXによるエンジニアリング・サービス事業の
基盤強化、海外への展開

新オートメーション事業

事業環境が変化中、顧客としての競争優位性(高い生産性、快適で安全・安心な空間の提供等)の獲得を支援する、顧客資産における「空間の質・生産性の向上」を付加価値とする領域

- 自動化から自律化に移行する領域での新規事業開拓
- データ活用、DX推進領域での新事業開拓

環境・エネルギー事業

顧客資産における「空間の質・生産性の向上」を、最小限の「資源・エネルギー」の消費にて実現することを付加価値とする領域。カーボンニュートラルの時代に向けて、「空間の質・生産性の向上」と「資源・エネルギーの最小化」の両立は重要テーマであり、azbilグループは、その両立を実現

- 「エネルギーの面的利用の場を提供することにより、お客様のカーボンニュートラルへの新たな取組みに貢献することで新事業開拓

ライフサイクル型事業

顧客資産における「空間の質・生産性の向上」と「資源・エネルギーの最小化」の両立を、長期にわたり実現。このためには、顧客資産を長期的に一定の条件に維持・メンテナンスすることが不可欠

- 24時間/365日体制で警報発生やクレームなどの異常発生後の一次判断支援、指示する人材・体制不足を解決することで新事業開拓

さらなる
拡大、

持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献

新たな社会課題を事業機会とするオートメーション事業での成長、それは同時に、事業を通じてSDGsの実現に貢献できる大きな機会でもあります。そこでazbilは、自らの成長と社会の持続性を両立させる「持続可能な社会へ『直列』に繋がる貢献」をキーワードとして、2030年度長期目標ならびに長期目標実現に向けたファーストステップとして中期経営計画(2021～2024年度)を策定し、事業を進めています。

3つの成長事業領域に注力

社会や産業等、様々な環境の変化から生まれた新たなニーズに対応し、社会・お客様とともに成長していくために、azbil グループは、「オートメーション技術を共通基盤とした3つの成長事業領域」を柱にビジネスモデルの「変革」を推進していきます。

「新オートメーション事業」は、気候変動対応、ウイルスとの共生、働き方改革、インフラ老朽化、ものづくりの高度化等、社会構造・環境変化によって生まれるグローバルな社会課題や顧客ニーズの変化に迅速に対応し、オートメーションを通じて高品質、安全、リモート、脱炭素化等の価値を提供。顧客資産の「空間の質・生産性の向上」を図っていく領域です。こうした付加価値を提供する際は、一般的により多くのエネルギー・資源を消費しますが、azbilはこれまでに蓄積したデータや省エネルギー・省資源に有効な製品・サービス、ノウハウを差別化要素として事業を展開。「環境・エネルギー事業」として社会の要請やお客様のニーズに答えていきます。

持続可能な社会に貢献するためには、さらにこの「空間の質・生産性の向上」と「資源・エネルギーの最小化」を両立させ、長期にわたって最適な状態を維持していく必要があります。「ライフサイクル型事業」はメンテナンスサービスなどを通して、この両立をお客様の資産のライフサイクルに応じて長期にわたって提供していきます。

これら3つの価値を事業領域として手掛けることができるのは、1世紀余りにわたってオートメーション事業に従事し、社会・お客様の現場で、数多くのデータ、ノウハウを蓄積、人を中心とした空間の最適化を構想から設計、施工・据付、エンジニアリング、メンテナンスまでを一貫して追求してきたazbilグループならではの事業価値といえます。

中期経営計画を通じて成長施策を着実に実行

中期経営計画初年度にあたる2021年度においては、これら3つの成長事業領域の拡大に向けて注力すべき分野を絞り込み、事業開拓を進めてきました。また、さらなる拡大・成長に向けて、他社との協業を含めた顧客基盤・お客様との接点の拡大を進めています。次世代エネルギーマネジメント事業DX-EGAに続いて、カーボンニュートラル実現に向けたグリーントランスフォーメーション(GX)を事業機会とする環境・エネルギー事業領域での他社協業の推進はその一例です。

また、ソリューションを提供する商品(製品・サービス)の拡張に向けて研究開発拠点、藤沢テクノセンターの機能強化を進めました。今後はさらに、デジタルトランスフォーメーション(DX)によるエンジニアリング・サービス事業の基盤の強化等を通じて、3つの成長事業領域を、国内外・事業領域を超えたオートメーションの共通価値として社会・お客様に提供していきます。

他社協業も含めた
事業領域の拡大

グリーントランス
フォーメーション(GX)ほか、
事業開拓への取組みを加速

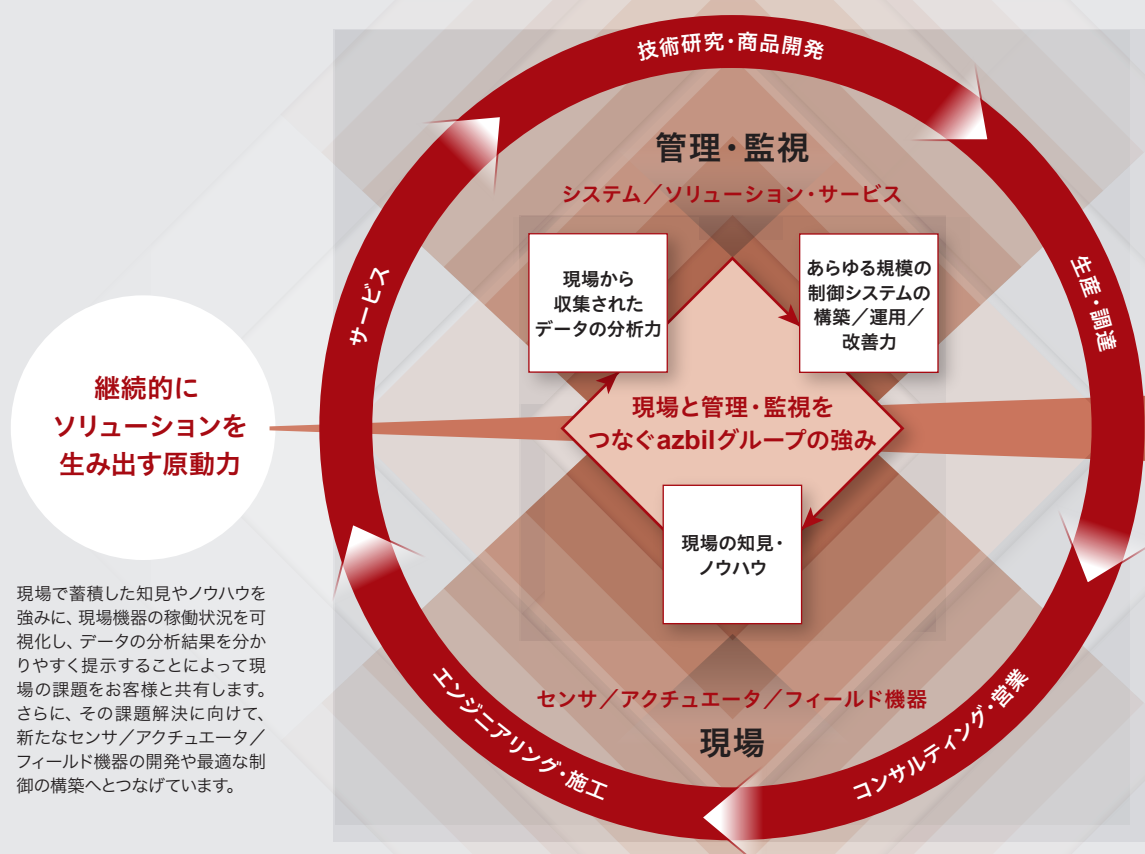
ソリューションを提供する商品
(製品・サービス)の拡張

システムソリューション、
クラウド、
デバイス開発力強化

成長に
向けて

5 — 事業体制

一貫した事業体制の下、
技術・設備・人材に積極的に投資。



継続的に
ソリューションを
生み出す原動力

現場で蓄積した知見やノウハウを強みに、現場機器の稼働状況を可視化し、データの分析結果を分かりやすく提示することによって現場の課題をお客様と共有します。さらに、その課題解決に向けて、新たなセンサ/アクチュエータ/フィールド機器の開発や最適な制御の構築へとつなげています。

技術研究・商品開発

IoT・AIに代表される技術革新により、システム、アプリケーション、ネットワーク、コントローラ、センサ、装置といった既存の製品領域が再編されつつあります。azbilグループは、建物やプラント・工場の現場で様々な計測を行う機器類、そして機器から収集した情報に付加価値をもたらすアプリケーションの2つの領域に着目し、基幹技術の開発に注力しています。開発にあたっては、社会課題の解決に貢献し、お客様の現場の変革や成長を支援し続けるために、AIの応用やネットワーク、システムアーキテクチャなど、新たな技術領域の知見を広げています。

azbilグループの主力製品である計測機器には、圧力や流量、湿度を検出する独自開発のMEMS (Micro Electro Mechanical Systems) センサが搭載されています。将来にわたって競争力のある製品を生み出すためには、その要であるMEMSセンサの性能向上と安定供給が欠かせません。azbilグループは、さらなる微細化の追求によるMEMSセンサの性能向上のほか、新検出原理の探究や新材料を用いたデバイス開発による商品価値の向上を通じて、計測機器の進化と3つの成長事業領域を核とした新たなビジネス領域の拡大を目指しています。

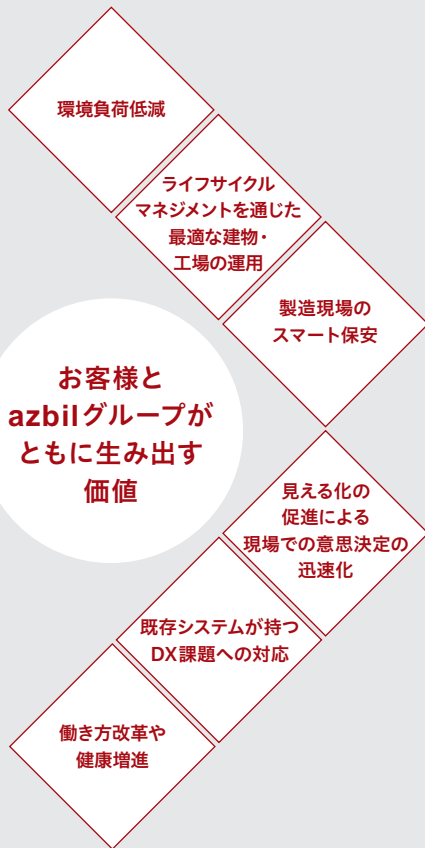
さらに、継続的なソリューション創出に向けた新製品・サービス

技術開発からサービスまでの一貫体制をさらに強化

新たな社会課題やお客様のニーズにお応えするオートメーションによるソリューションを継続的に生み出し、お届けするためには、新製品・サービスを生み出す先進的な技術開発体制はもとより、お客様の現場での課題を把握し、最適なソリューションをグローバルにお届けするための生産からコンサルティング・営業、エンジニアリング・施工、そ

して納入後のサービスまでを一貫してお届けするグローバルな体制が必要です。

azbilグループは、積極的な研究開発・設備投資を行うとともに、販売・サービス・エンジニアリングのデジタルトランスフォーメーション (DX) 施策、ネットワークインフラの強化施策、さらに近年注目が集まる人的資本一人材育成の強化を通じて、azbilグループの強みを活かした技術研究・商品開発力、一貫体制の強化を進めています。



の開発強化のため、マーケティング機能と開発機能も強化しています。開発については、機器類とアプリケーションへと2極化が進む顧客ニーズにお応えするため、システムソリューションとデバイス・フィールド機器の開発力の強化を図る研究開発拠点「藤沢テクノセンター」を整備・強化しました(2022年5月竣工)。

営業・エンジニアリング・サービスネットワークとDX促進

営業・サービス拠点を23カ国/地域に展開し、商品・サービスを提供しています。海外の人員・拠点増強等、販売・サービス網のさらなる強化に加えて、SFA(Sales Force Automation)やMA

(Marketing Automation)の導入・グローバル展開、リモートメンテナンスなどクラウド活用によるサービスの提供体制整備等、DXによる高付加価値化、効率化を促進しています。そのほか、他社との事業提携、東南アジア戦略企画推進室を中心とした海外地域事業展開等を実施しています。

グローバル生産・調達体制

日本・中国・タイを3極とする生産体制を敷き、サプライチェーンでの社会的責任を果たすとともに、グローバルな事業展開を支える最適な生産体制の構築を進めています。

湘南工場・藤沢テクノセンターでは、他の事業所と連携してグローバル生産体制におけるマザー工場としての役割を担っています。また、グローバルでの需要拡大に対応した生産能力拡大、生産工程の高度化とさらなる自動化の推進を目的にアズビル機器(大連)有限公司に新工場棟を新設するなど、海外における生産能力を強化しました。

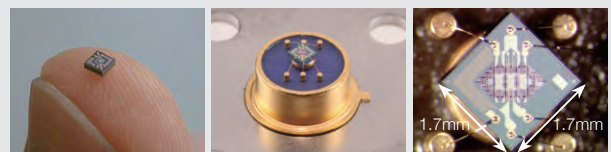


アズビル機器(大連)新工場棟

人材育成

お客様の現場で課題を把握し、最適なソリューションをお届けするには、高い技能・豊富な知識をもったエンジニアが要となります。そこでazbilグループは、一貫体制の整備と並行して人材育成に力を入れています。

例えば、IoT・AI時代を見据えた次世代のエンジニアを育成するために、最新の技術動向や実践例を含めた技術者育成プログラムを策定。付加価値の高いソフトウェアや高度なエンジニアリング・サービスの実現に必要な知識と技術力の強化を図っています。また、独自のSDGs目標にも人材育成の目標を設定し、全社員の育成、成長を目指しています。



独自開発の気体流量計 MEMSセンサ(マイクロフローセンサ™)
(センサのサイズ: 1.7mm×1.7mm×0.5mm)

6 — サステナビリティ経営

創業の理念をもとに、 持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献をする。

長期にわたり取り組む重点課題を特定

azbilグループは、企業として持続的な成長を実現するためには、CSRを経営の基盤とした企業活動の実践を通じて、あらゆるステークホルダーから信頼される存在でなければならないと考えています。この考えは、創業時における「人間の苦役からの解放」を起点に、社会・産業の省エネルギーへの貢献を目指す「Savemation (Save + Automation)」、そしてazbilグループの理念「人を中心としたオートメーション」へと進化し、その意を表す「azbil」は、社名ともなっています。この創業以来のDNAを内核としたグループ理念は、SDGs目標(持続可能な開発目標)、サステナビリティの思想に通じるものであり、当社の持続的な成長を支える要といえます。

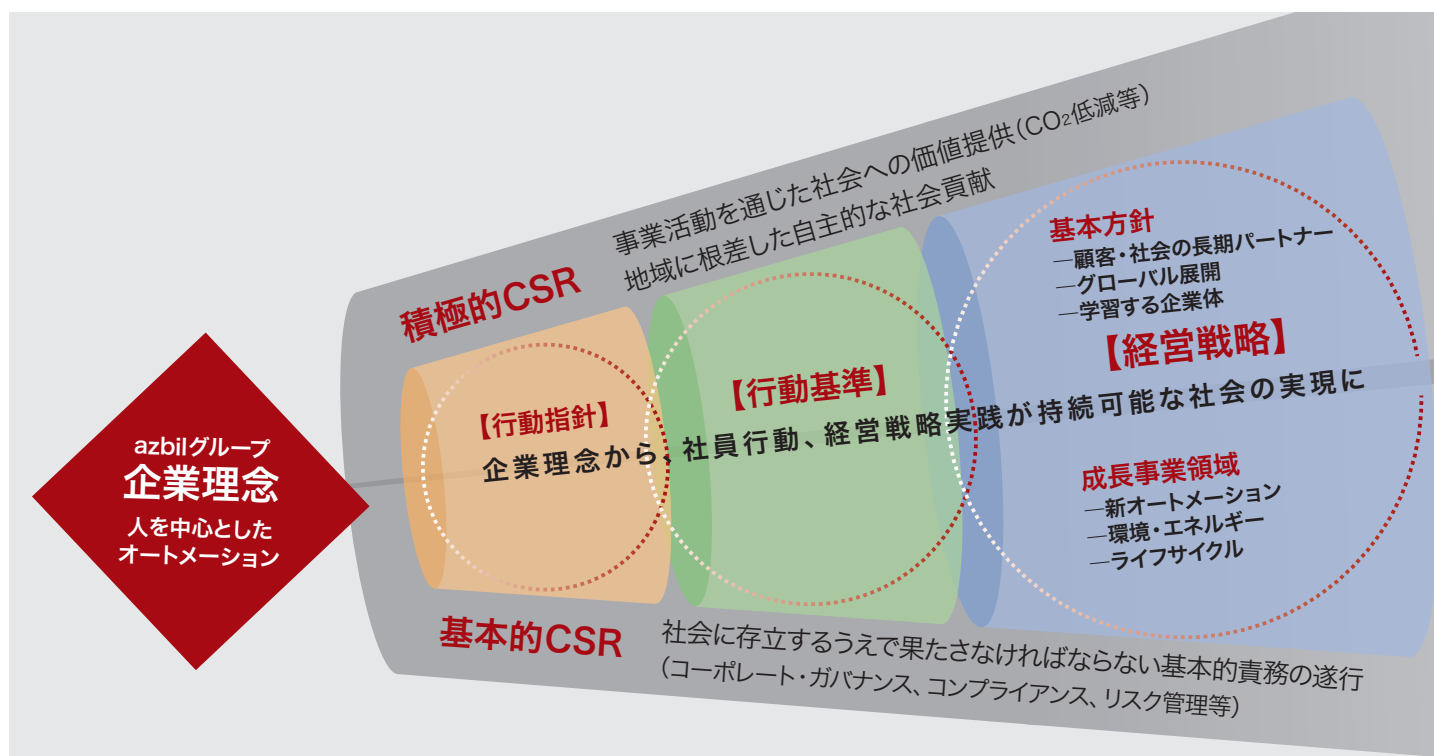
当社グループは、この理念の実践を通して持続可能な社会へ「直列」に貢献するため3つの基本方針^{*}を策定、「積極

的CSR」と「基本的CSR」を両輪とするazbilグループならではのCSR経営を標榜し、グループ社員が一体となって取り組めるよう企業行動指針・行動基準を改定してきました。

2022年8月には、脱炭素やコロナ禍等、社会の環境、ニーズが大きく変化するなか、グループ理念をもとに、事業環境変化(機会とリスク)を勘案、投資家等ステークホルダーの皆様のご意見を伺い、azbilグループが「長期にわたり取り組む重点課題」を特定しました。今後は、特定した10の重点課題のさらなる評価・優先度検証とそれぞれの目指す姿に向けて、当社グループのサステナビリティ推進体制を通じて、目標設定も含めた取組みを強化していきます。

^{*} 3つの基本方針

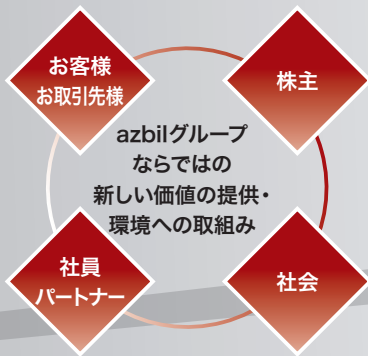
- 技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」へ
- 地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」
- 体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」を目指す



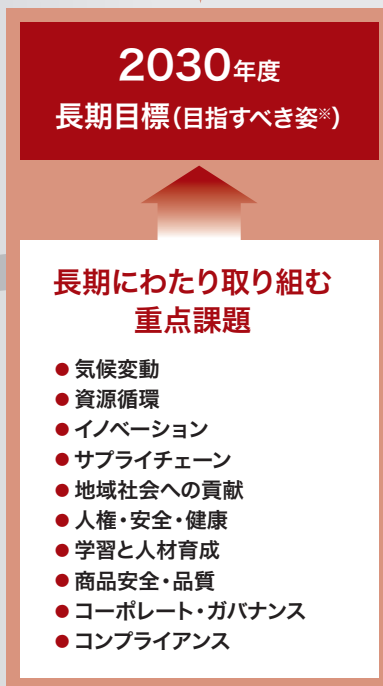
長期にわたり取り組む重点課題特定のプロセス



重点課題	達成を目指す姿
気候変動	脱炭素社会の実現に向けた環境課題への貢献
資源循環	地球環境に配慮した製品・サービスを通じた資源課題への貢献
イノベーション	安心・快適な社会に向けた新しいオートメーションの継続的な追求
サプライチェーン	サプライチェーンにおけるCSR価値(環境・人権等)の共有
地域社会への貢献	地域に根差した活動を通じ住み続けられる地域社会への貢献
人権・安全・健康	「人を中心」とした価値観に基づく企業活動、健幸経営の推進
学習と人材育成	「学習する企業体」の企業風土の醸成と教育基盤の強化
商品安全・品質	お客様の安全・安心を第一とする高品質な製品・サービスの提供
コーポレート・ガバナンス	透明性の高い経営を通じた企業価値の継続的向上
コンプライアンス	高い企業倫理に基づく社会的責任の遂行



直列化



※ 長期目標(目指すべき姿)
顧客資産の「空間の質・生産性の向上」とともに、そのためのエネルギー量を抑えることにより地球環境保全にも貢献し、その両面を解決する事業を国内外で展開、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を実現

azbilグループの価値創造モデル

時代とともに変化するお客様や社会の課題に対し、「計測と制御」のオートメーション技術と、常に人を中心に据えて課題を解決するという発想で、技術やソリューションを磨き上げてきました。現場に密着した一貫体制でお客様との価値創造を進めることこそがazbilグループならではの取組みであり、追求する姿です。

経営資本 (インプット)



人的資本

従業員 10,086名
(2022年3月末時点)
アズビル・アカデミー
年間受講者数(延べ人数)^{※1}
80,000人
公的資格(重点資格)^{※2}
の有資格者数(延べ人数)
2,700人



社会関係資本

営業・サービス拠点
23カ国/地域
国内14社、海外45社



知的資本

研究開発費 約560億円
(2021～2024年度計画)
研究開発拠点機能強化設備投資
約70億円(2021～2022年度)
特許 2,520件(2022年3月末時点)



製造資本

製造拠点 国内10工場、海外6工場



自然資本

エネルギー総消費量^{※3}
59,606MWh
水使用量^{※4} 110百万L



財務資本

発行体格付 A+(R&I)
(2022年3月末時点)

※1 講座にはCSRなどの共通教育、個人選択の通信教育等を含み、受講者数にはグループ会社ほか協力会社・販売店等の社員を含む。

※2 公的資格のうち、事業運営などで重要度の高い資格の取得実績

※3 算定範囲:アズビル株式会社、および連結子会社

※4 算定範囲:アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点

BA 事業

ビルディングオートメーション
建物向け製品・サービス

AA 事業

アドバンスオートメーション
プラント・工場向け製品・サービス

LA 事業

ライフオートメーション
暮らしを支える製品・サービス
(ライフライン、ヘルスケア、住宅)

技術研究・商品開発

サービス

生産・調達

開発・生産から販売、
エンジニアリング、
サービスまでを
一貫して提供する
azbilのバリューチェーン

(p51～)

エンジニアリング・施工

コンサルティング・営業

3つの成長事業領域での成長

- ◆ 長期目標(2030年度)
- ◆ 中期経営計画(2021～2024年度)(p31～)

環境(Environment)

持続的成長を支える基盤

- ◆ azbilグループの考えるサステナビリティ
(p71～)

- ◆ 環境への取組み (p73～)

グループ理念

azbilグループが提供する製品・サービスがお客様のお手元に届き、お客様と社会の課題解決に役立つことによって、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献とともに、自らの継続的な成長、企業価値向上を実現します。現長期目標・中期経営計画では、サステナビリティを支える事業基盤の強化を進めるとともに、開発からサービスまでの一貫体制を活かし、3つの成長事業領域の拡大を加速するため、経営資本の投入を行っています。

主な製品
(アウトプット)

**azbilグループの
提供価値**
(アウトカム)

3つの成長事業領域

【お客様:建物オーナー、建設業】

- ◆ オフィスビル、研究所、工場、データセンター、ホテル、ショッピングセンター、病院、学校、空港等

ビルディングオートメーションシステム
バルブ、コントローラ
センサ・計測機器

【お客様:製造業】

- ◆ 石油化学・化学、石油精製、電力・ガス、鉄鋼、ごみ処理・上下水道、紙
- バルブ、船舶、食品、薬品、自動車、電気・電子、半導体、各種製造装置

バルブ、ポジション
監視・制御システム
調節計、各種センサ

【お客様:ガス会社、自治体、医薬品製造、住宅メーカー】

- ◆ 都市ガス、LPガス、水道、医薬品、一般戸建住宅

各種ガス・水道メーター
医薬品製造装置

新オートメーション事業領域
環境・エネルギー事業領域
ライフサイクル型事業領域

オートメーション技術を共通基盤として新たな社会・顧客ニーズが生まれている様々な市場に展開可能です。

長期目標
(2030年度)



安心
安心して、健康に暮らせる、仕事ができる。

中期経営計画

2021年度～2024年度

快適
いつでも快適に過ごせる、仕事ができる。



達成感
お客様と新たな価値を創造する。

地球環境への貢献
エネルギーを最適に管理・運用できる。



事業を通じたSDGsへの貢献

- 環境・エネルギー
- 新オートメーション
- サプライチェーン、社会的責任
- 健康経営、学習する企業体



経済価値

持続的成長、企業価値の向上、還元によるステークホルダーに対する経済的付加価値の再配分。



3つの成長事業領域での事業展開を核に、顧客ニーズ・新たな社会課題等の事業環境の変化を捉え、国内外において新製品・サービスを投入しBA、AA、LAの3つの事業での成長を実現

社会 (Social)

- ◆ 品質保証・安全 (p80)
- ◆ CSR調達 (p81～)
- ◆ 人財: 人的資本の価値向上への取組み (p77～)
- ◆ 知的財産戦略・ブランドマネジメント (p83)
- ◆ コンプライアンス・内部統制 (p84)
- ◆ リスクマネジメント (p85～)
- ◆ 価値協創へつながるステークホルダーとのコミュニケーションへ (p101～)

ガバナンス (Governance)

- ◆ コーポレート・ガバナンス (p88～)

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で人々の安心、快適、達成感を実現するとともに、地球環境に貢献します。

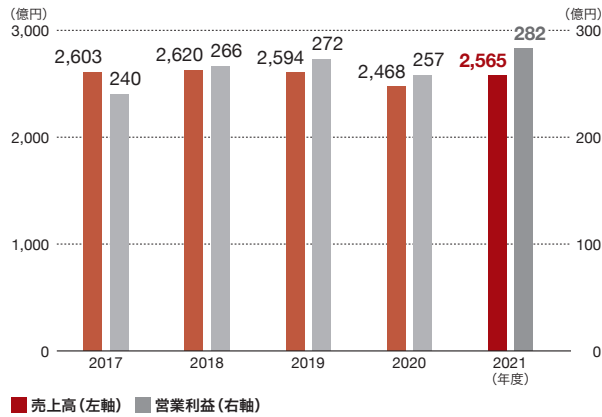
財務・非財務ハイライト

アズビル株式会社および連結子会社

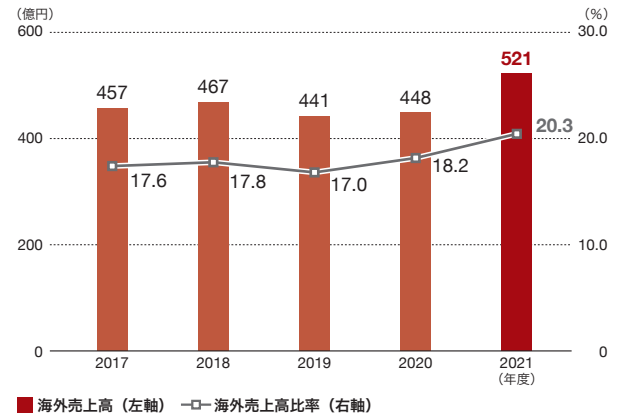
2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
1株当たり当期純利益 (EPS) ならびに1株当たり配当金は、株式分割の影響を考慮した数値で表示しています。

財務ハイライト

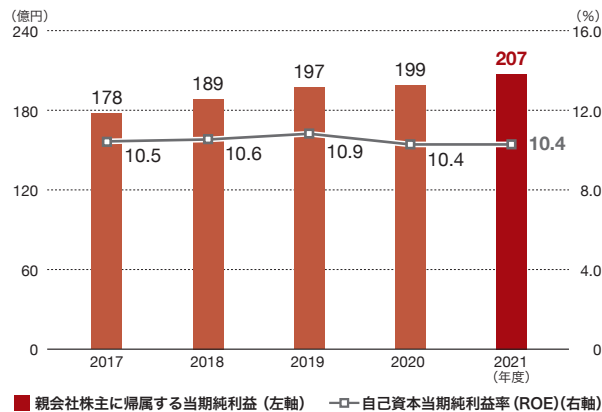
売上高／営業利益



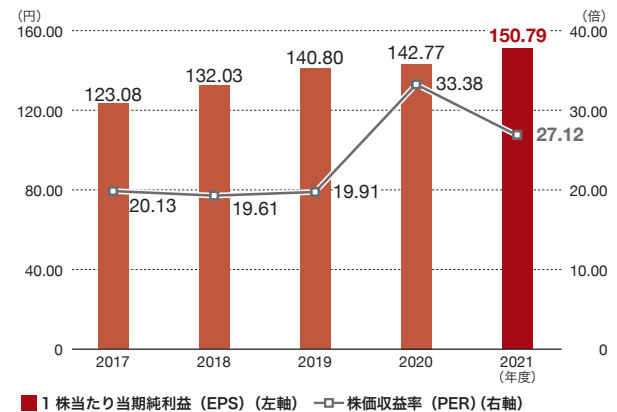
海外売上高／海外売上高比率



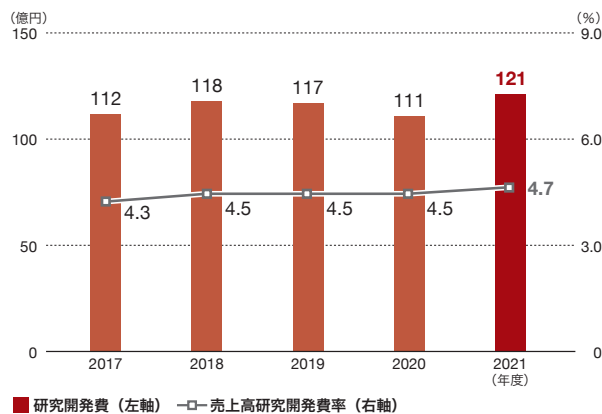
親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本当期純利益率 (ROE)



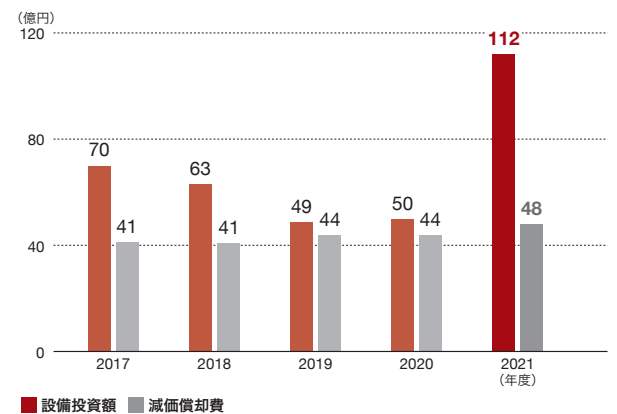
1株当たり当期純利益 (EPS)／株価収益率 (PER)



研究開発費／売上高研究開発費率

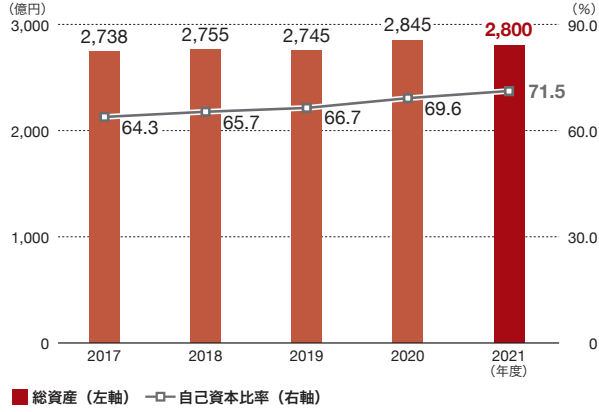


設備投資額／減価償却費

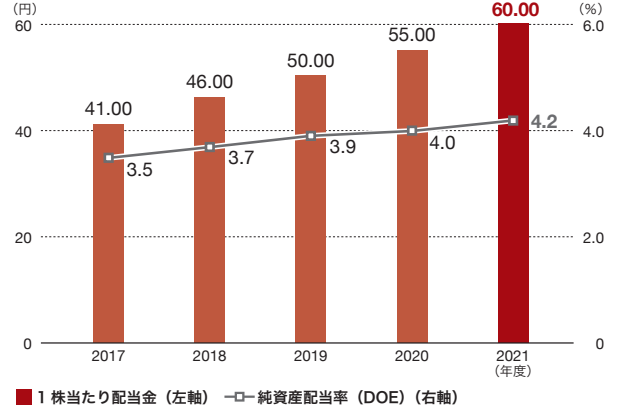


※ 2021年度は、藤沢テクノセンター機能強化に関する設備投資が増加しています。

総資産／自己資本比率

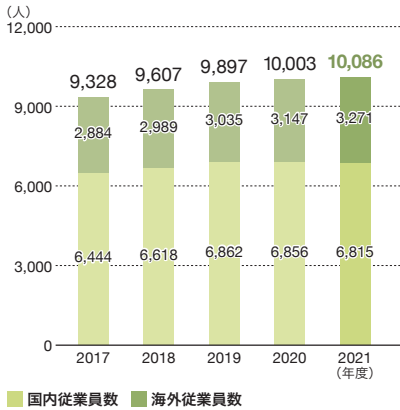


1株当たり配当金／純資産配当率(DOE)

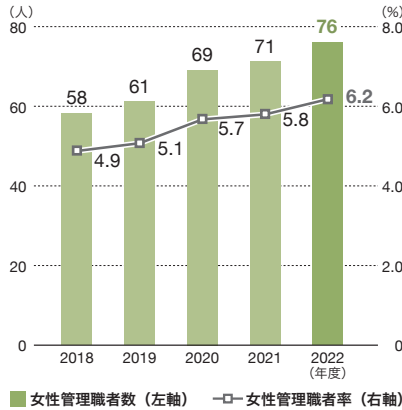


非財務ハイライト

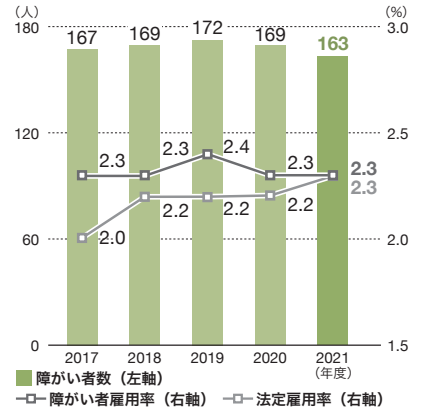
連結従業員数



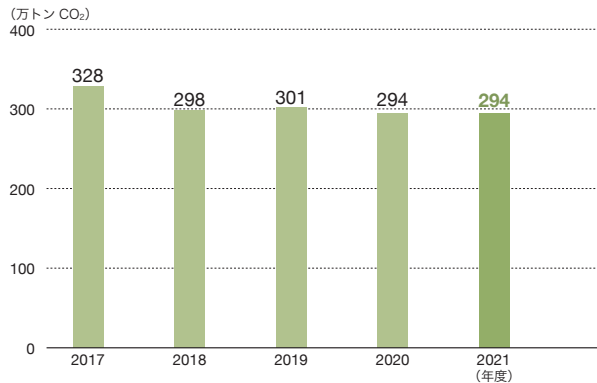
女性管理職者数／女性管理職者率 (アズビル株式会社 4月1日現在)



障がい者雇用率



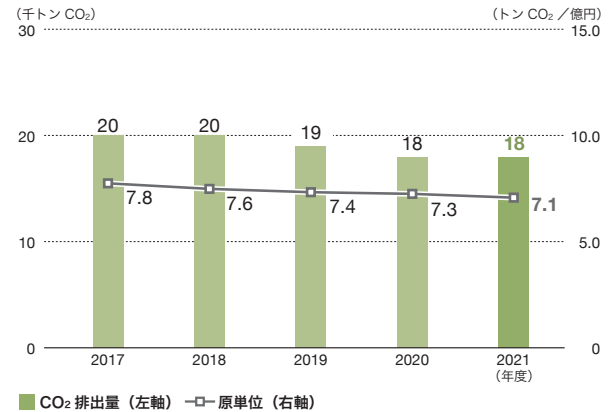
お客様の現場におけるCO₂削減効果 アズビル株式会社および海外現地法人



※ 2018年度に推計手法に関する第三者レビューを実施しています。再生可能エネルギー導入拡大に伴う電力CO₂排出係数減少の影響を受けていますが、環境負荷低減に貢献する事業が伸長したことなどにより同水準のCO₂削減効果を維持しています。

CO₂排出量(スコープ1+2)／原単位

アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点



※ 電力のCO₂排出係数は一定値(0.378kg-CO₂/kWh)を採用しています。